

ベテラン日本語教師のナラティブの映像化 とその教員研修への応用の試み

牛窪 隆太(関西学院大学)
金 孝卿(早稲田大学)
三代 純平(武蔵野美術大学)

本発表の目的

- ベテラン日本語教師の語りを収録した映像作成過程において実施した視聴会の事例を報告する
- 内容に「教師の語り」を位置づけ、語りの視聴を軸とする教員研修の可能性について提起する

発表の流れ

- 1) 「省察」と「実践知」(先行研究)
- 2) 教員研修と「内容」
- 3) 事例研究(分析)
- 4) 結果と考察
- 5) まとめ
- 6) 今後の課題

「省察」と「実践知」

- 省察的实践家 (Reflective practitioner)
 - ・ ショーン(2007[1983])による概念
 - ・ 専門的熟練性をめぐる二つのフレーム
 - …「技術的合理性」VS「行為の中の省察」
 - ・ 専門職が直面する課題状況の複雑さ
 - ・ 課題解決状況における枠組みの再設定
 - ・ メタ的、共同的な「行為の中の省察」の意義
 - ・ 「実践者がみずからの実践の研究者となる」
- ⇒ アメリカの専門職大学院における「専門家像」批判理論(=研究成果)の実践への「適用モデル」批判

「省察」と「実践知」

- 自己研修型教師 (Self-directed teacher)
 - ・ 背景: 教授法の変化、学習者の多様化
 - ・ 「教師トレーニング」に代わる教師の成長モデル
 - ・ 「既存の教材やシラバス、教授法などをそのまま受け入れるのではなく、学習者に合った教材や教室活動を創造していく教師」(岡崎・岡崎,1997)
 - ・ 「どのように」だけでなく「何を・なぜ」を含む「省察(内省)」
 - ・ 方法論としての「アクションリサーチ」(横溝2006)

「実践知」を意識化することで、「形式知」にする？

「省察」と「実践知」

- 「行為の中の知」 ショーン(2007[1983])
 - 実践知 ……一般的理解
 - ・ 意識しないままに実施の仕方がわかるような行為、認知、判断
 - ・ こうした行為、認知、判断を学んでいるのに気づかない
 - ・ 行為の本質に対する感覚には、あとから取り入れる了解事項について、あらかじめ気づいている場合もある
 - ・ 行為が指し示す知の生成を記述することは通常はできない
- 行為の中の知:
⇒ 「行為の中にある暗黙のノウハウ」
 - ・ 「先行する知的操作からは生まれないある種の知」
 - ・ 「暗黙のフレーム」として、後の省察や知の生成を制約する

「省察」と「実践知」

● 「実践知」と「形式知」の議論

- ・知識創造論における議論
 ……「暗黙知」は表出化(言語化)によって、「形式知」化される
 (野中・竹内, 1996)
- ・「暗黙知」とは、すべての知識が「人格的」であることを示す概念
 (福島, 2009)
- ・実践家の発達は、「抽象的な形式知を特定の状況に根付かせ
 具体化していく」過程を伴う。二人として、同じ実践知を発達させ
 るものなどない。
 (香川, 2011)

専門家の実践知＝「状況」に根付いた「人格的」なもの

「省察」と「実践知」

● 言語教師研究における同様の指摘

Borg (2003) ……言語教師認知 (language teacher cognition)
 “What teachers think, know and believe”

長嶺 (2014) ……

- ・言語教師研究における要素還元主義への批判
- ・教師の「知識」、思考、意思決定などが、信念体系と切り離せないものであるという認識の高まり
- ・近年では、「知識」と「信念体系」を同一視する流れ

「省察」と「実践知」

● 言語教師の知識 (長嶺2014, p.21より抜粋)



知識は「信念体系」に沿って「選択的に」形成される

「教員研修」と「内容」

● 「内容」重視タイプの教員研修

- ・教育実践の内実をもとに議論する (例、「実践持ち寄り会」)
- ・教育実践についてeポートフォリオ作成する ……加藤(2013)
- ・教師の「語りの場」を設定する ……末吉(2013)
- ・「対話型教師研修」 ……館岡(2016)

教師研修：トレーニングから教師の「対話」や「省察」へ
 内容：教育実践、教師の「実践知」

「教員研修」と「内容」

● 「実践知」を内容にする研修

- ・経験主義的な話し合いになる傾向 (ベテラン>>>新人)
- ・「現場」や「キャリア」が同じではないという特性…「信念対立」

● 参加教師の経験差による難しさ

- ・加藤(2013):「若手教師からの自発的な意見表明が難しい」
 「意見交換を活性化させるためには、強制的な報告を含めたルール作りが必要」

「実践知」＝「状況的」「人格的」知識であることに起因？

事例研究

● 「ベテラン教師の語りの映像化」

- ・教師の「教育哲学」「実践観」についての語り(2時間)を収録
- ・サンプル版(20分)を作成
 - 1) 語りの内容にキャプションを入れる
 - 2) キャリアの変遷を軸として編集(その先生ならではの部分)
 - 3) 協力者自身に視聴してもらい、再編集
- ・2名の教師(ともに、大学教員)の語りを映像化
- ・現職教師(5年程度)を対象とした視聴会を開催

事例研究

● 映像について

田中先生(60代男性)21分33秒

キャプション

- ・この仕事を選んだきっかけ
- ・新人教師時代
- ・教科書をつくることについて
- ・プラットフォームとしての教材
- ・「変えたい」のはなぜ?
- ・教師の専門性について
- ・学習者を支えるカリキュラムと教材とは

鈴木先生(60代男性)26分54秒

キャプション

- ・「自分にはできない」教育実践
- ・「個の文化」という考え方
- ・「言語活動」の原理は一つ
- ・「表現すること」から「市民性」へ
- ・「離れてみること」について
- ・距離を置いて全体を見ることが自由
- ・「集団類型化」を背負わない

事例研究

● 視聴会について

* 目的 現職教師の視点からフィードバックを得る

- * 方法
- 1) キャリアに示唆を与える部分について映像を見ながらタスクシートにメモを取る
 - 2) メモについて、重要度を3段階で評価する
 - 3) フォーカス・グループ・インタビューを実施する

* 参加者

	年齢	教歴	教育機関
A	20代(女性)	4年3か月	国内民間学校
B	20代(女性)	2年3か月	国内民間学校
C	20代(女性)	5年6か月	国内民間学校
D	30代(男性)	5年	国内民間学校
E	40代(女性)	4年3か月	国内民間学校

事例研究

● 分析対象

- 1) タスクシート(映像に沿ってコメントを記入してもらったもの)
- 2) フォーカス・グループ・インタビューの文字化資料

● 分析観点と方法

- 1) 映像のどの部分にコメントを記入しているか
タスクシートの記述部分をトレースして特定 …(1)
- 2) インタビューで、どのような語りがなされているか
発言内容にコードをつけて展開を検討 …(2)

事例研究

● 結果と考察(1)・・・タスクシートからわかること

- ・メモが多くなされている部分は、緩やかにではあるが、重なりが見られる。
- ・教育実践に直接関係する「**指針の語り**」に加えて、「**実感の語り**」や「**教育哲学の語り**」についても、メモがなされている。

教授技術といった「形式知」だけではなく、「実感」や「教育哲学」などベテランの「信念体系」に関わる部分から省察

事例研究

● 結果と考察(1)・・・田中先生の映像について

- ① 実感の語り
(教師は自己満足、理屈は虚しい)
- ② 指針の語り
(初級・漢字教育が要)
- ③ 指針の語り
(教室外で習得できること)
- ④ 教育哲学の語り
(教師は教えない、学ぶのは学生)

事例研究

● 結果と考察(1)・・・鈴木先生の映像について

- ① キャリアの語り
(国語教育から日本語教育)
- ② 教育史の語り
(定義が曖昧な日本事情)
- ③ 指針の語り
(文化の扱い、表現することの意味)
- ④ 実感の語り
(行き詰まったら俯瞰して見る)
- ⑤ 教育哲学の語り
(教師は反自由か、自由か)

まとめ

- 「教師の語りの映像」の可能性
- ・ 調査方法そのものが、「研修の方法論」になりうる。
- ・ 映像の解釈を話すことは、すべての教師が実施可能。
- ・ 映像の解釈や評価について話す＝直接的な信念対立を回避しながら、参加者の信念や振り返りを誘発。
(「実践知」を「文脈」から切り離すことで、再解釈が可能に)

まとめ

- 参加教師の終了時のコメント

B	なんか、私が感じたことは、普段から、こういうことを考えよう、考えなければいけないっていうのは、すごくわかってるんですけど、なんかそれを考えるきっかけって実は、あんまり取れていなくて。なんかこういう先生方を見ることによって、なんか自分の中にある思ってることとか、考えたことが、実は、こういうことだったのかなみたいな。なんか、そういう、なんで言ったらいんですかね、きっかけじゃないですけど、あー、そう言えば、私も、これとっても大切だと思ってるとか、そういうのを見つめるいい機会になるかなって思います。
D	なんか、田中先生が言ってたね、これ、教えてないですもんね、今。その二人とも教えてない状況で、こっちが勝手に考えて、なんか学んでる気はするので、なんか、そういう意味が。(牛窪: 教えてない、あー、説明してないって)何が大事かって、勝手に。(牛窪: 勝手に喋ってるのを聞いて、なるほどっていう?) こっちが勝手に。
E	あの、鈴木先生が言った、行き詰まったら距離をとって離れて見るってところで、今日に束縛から自由へってところで、その授業ばかりしてると、その、狭い世界になっちゃうし、そのそこから自由になるっていう。その先生たちの話を聞くと、ちょっと視点を変えるきっかけに、まさになるっていう、思いますね。私も、そこは、普通の丸にしています。そういうきっかけにはすごくありますね。

まとめ

- 参加教師の終了時のコメント

A	私、はじめは、その映像の見方を間違えていたというか、いつもの感じで、自分の授業にどう見えるかなっていう感じで、聞いていたんですけど、なので、二人目の先生の場合、あまりメモができていなかったと思うんですけど、でも、今のお二人(参加者のこと)の話を聞いて、そう言えば、その授業でどうするかじゃなくて、根本的に、学生、こう教えるじゃないけど、(ジェスチャー)(D: 接し方?) 接し方とか、考え方っていうのが、そのインタビューを見た方が、ちょっと考えるようにはなりました。
C	日本語学校で、五日間働いていて、その学校によっても、学校それぞれ違うと思うんですけど、結構、働いているところだったら、こうしないといけないとか、まあ、いい学生を育てたいっていう考えがあるから、やっていると、まあ、理解した上でやっていたんですけど、はじめは、なんかすごいんでこんなことするのかなっていう考えで働いていたのに、経験を積んで、だいたい何年も働く中で、こうしないといけないっていう、こうすごい型にはまってるっていうのを、この映像を見て、わかって、で、本当にこのお二人の先生が、自由っていうか、好き勝手? みたいな、っていうのをおっしゃって。もともと私もその好きにやりたいっていうのはあって。その自分の授業では、そのちょっと好きにはしているけれども、やっぱりこう学校って考えたら、好きにはできないことが多いです。で、なんか大学で教えてるとか教えられてたっていうので、日本語学校とは違うんですけど、本当に、自分ってなんか狭い世界で生きてるんだっていうのは、あって、最近、仕事も楽しめないっていうのが、思うのもすごい多かったですけど。でも、こういうのを見ることで、もうちょっと違うように考えようかなとか、自分の中でどういう風に、自由って作れるんだろうとかっていうのを、考えられるきっかけになりました。

今後の課題

- 教員研修に特化した手順の整備と検討
- 話し合いを「行動変容」につなげるための方法論の検討

謝辞: 本研究は、JSPS科研費(16K13249)の成果の一部です。

参考文献

- 阿崎敏雄・岡崎隆(1997). 『日本語教育の実習』アルク
- 加藤由香里(2013). 日本語教師の実践交流コミュニティによる専門的成長の支援『教育メディア研究』Vol.20, No.2, 35-40
- 香川秀太(2011). 実践知と形式知、単一状況と複数状況、分析と介入、そして質と量の越境的対話—状況論・活動理論における看護研究に着目して『質的心理学フォーラム』Vol.3, 62-72
- 末吉朋子(2013). 教師の悩みはどこから来るのか?—日本語教師たちのナラティブ探求を通して—『阪大日本語研究』25, 75-104
- 館岡洋子(2016). 「対話型教師研修」の可能性—「教師研修」から「学び合いコミュニティ」へ—『早稲田日本語教育学』第21号, 77-86
- 長嶺寿宣(2014). 言語教師認知の最近の動向『言語教師認知の動向』笹島茂ら(編著). 開拓社, 16-32
- 野中郁次郎・竹内弘高(1996). 『知識創造企業』東洋経済
- 福島真人(2009). 暗黙知再考: その由来と理論的射程『インターナショナルナレッジレビュー』Vol.32, No.4, 19-21
- 横溝伸一郎(2006). 教師の成長を支援するという自己—自己教育力とアクション・リサーチ『日本語教師の成長と自己研修』春原憲一郎・横溝伸一郎(編著). 凡人社, 44-67
- ジョン・D. A. (2007[1983])『省察的実践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考』柳沢晶一・三輪健二(監訳). 風書房
- Borg, S. (2003) Teacher cognition in language teaching: A review of research on what language teachers think, know, believe, and do. Language Teaching, 36 (2), pp. 81-109.